

「芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム 検討状況のお知らせについて」に対するご質問・ご意見への回答

ご意見のカテゴリ	ご意見	回答
市民説明について	資料の回覧だけでは経過や進行状況、完成後の運用計画等が判らない。コロナ禍ではあるが、説明会等は計画するのか。	
	説明会が難しいのであれば、市民の意見を取り入れ協議する場の設置とその進行の公開等は検討しているか。	
	配布資料だけでは計画内容がわからない。基本設計で位置や形態などをどのように変更するといふことなのか、住民への説明がない。計画全体に対する説明会、意見交換の場を設けて欲しい。	
	説明会を開き、そこで出された意見質問などに対する考え方をホームページだけでなく回覧等でも住民へ知らせて欲しい。	今回の資料配布及び公表について、本来であれば、説明会を開催し現状をお知らせるべきところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、この様な形式にてお知らせさせていただきました。 都内の新型コロナウイルス感染者数は本回答の時点で増加傾向にあり未だ予断を許さない状況ではございますが、感染者数・社会情勢を踏まえた上で感染対策を十分に講じながら、ご説明する機会を設けさせていただきたいと考えております。 開催については、改めてお知らせします。
	少人数でも意見交換の場を設けて欲しい。	
	各種ステージについて、運用やイベント内容について周辺住民の十分な納得が必要。説明会の開催をして欲しい。	
	地元の文化ゾーンネットワークや原町田四丁目町会、五丁目町内会、芝公園自治会、原四街づくりの会の代表との会議を開催して欲しい。	
	今年の1月に集約した、公園活用アイデアの市民公募意見は、配慮されたのか。	これまでにいただきました公園活用に関するご意見は今回の基本設計検討の参考とさせていただきました。 今回いただいたご意見については、今後行う実施設計及び、管理運営手法の検討への参考とさせていただきます。
	これまでの検討経過に、MSPやせりがや冒險遊び場で取ったアンケートに小学生のものが含まれていたが、第1期整備工事でオープンした芝生広場や多目的広場の利用者である小中学生や高校生に、公園の使い方や設備についてアンケートを取る等して、利用者が本当にほしいものの意見を吸い上げてほしい。第1期整備工事で広場がオープンして以来、スケボーをする子どもたちや芝生広場で球技をする子どもたちが多くいる。バスケゴールやスケボー場などのニーズがあるのではないかと思っている。グランドには更衣室がないことも気になる。シチズンシップ教育の意味でも、チャンスを示してほしい。	これまでに市内の大学・高校や、2020年1月26日に開催した「FireMeeting」時に来園していた学生などにアンケート調査を行い、芹ヶ谷公園の使い方について意見をいたしました。引き続き、若い世代や公園利用者の意見を取り入れるよう努めてまいります。
	2024年オープンになっているが現在の計画進捗状況はどうなっているのか。	2024年度オープンに向けて、現在、公園と美術館の基本設計を進めております。
”芸術の杜”プロジェクトについて	芸術の杜としての再整備について周辺住民としての長年の希望が実現しようしている。大変有難く感じている。	ありがとうございます。地域の方々はもちろん、多くの方に愛される公園を目指して検討を進めてまいります。
	指定管理者制度導入のようだがいかがなものか。	パークミュージアムでは、公園の価値と資源を活かし、まちなかの賑わいと連携させていくことで、町田らしい多彩なアート・カルチャーを体現する場となることを目指しています。 その実現に向けた最適な管理・運営手法の検討を進めてまいります。
	芹ヶ谷公園・町田市立国際版画美術館・(仮称)国際工芸美術館は市の責任で運営管理してほしい。	
	運営の要として、専門職の学芸員を必ず任用して欲しい。	学芸員は、美術館に欠かすことができない存在です。今後も市の学芸員が運営に参画し、今まで培ってきた展示資料や展示ノウハウを活かしていきたいと考えています。
	公園はパークPFIまたは指定管理に出しても、町田市立国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館は市の直當で今まで培ってきた展示資料や展示ノウハウを活かして欲しい。	
	ステージがたくさんあるが、イベントの主体はどこか。市民(周辺の住民、子ども、青年も含む)との繋がりが見えない。	市民参加型プラットフォームであるMade in Serigayaをはじめ、様々な方が協力して活躍できる公園を目指し、検討を進めてまいります。
	パークミュージアム構想はとても素敵な取り組みだと思っており、市民として協働していきたいと思っている。計画にはパークミュージアム構想については書かれているが、実際整備された後、誰が中心となってパークミュージアムの運営していくのか、現在made in Serigayaのアートに集まっているメンバーの最終目標と整備後の活動がどうなるのかが、よく分からぬ。パークPFIや指定管理業者と市民が協働して芹ヶ谷公園をもりあげていくことができるのかを知りたい。	現在、公園で活動されている方はもちろんのこと、多くの方や事業者などと一緒にになって芹ヶ谷公園を魅力的にできるように、検討を進めてまいります。
	町田市立国際版画美術館・(仮称)国際工芸美術館の学芸員は専門性を持ち、美術館の企画を充実していく存在だが、パークミュージアムの企画運営にはそのような学芸員達のアドバイスも受けながら、行政の担当課、指定管理業者、市民があわせて都市公園法17条第2項で示されている協議会を設置し、実際の運営に携わっていくことが望ましいと思っている。ぜひ協議会の設置を検討して欲しい。	多様な方が参画できるような場のありかたを含め、公園・美術館にとって最適な管理・運営手法の検討を進めてまいります。
	美術の観賞だけでなく、体験することは大事だと思うが、賑わいを求めるイベントは如何なものか。芹ヶ谷公園ならではの企画が継続できる計画にしてほしい。	「芹ヶ谷公園ならでは」の企画が継続できる計画について検討を進めてまいります。
	本企画は骨子となる部分で道筋がずれていないか心配である。芸術の杜は市民の健康増進、憩いの場であると同時に市民の芸術・情操を高めるための場であることが基本であり、客寄せを主体とした、パーク・アミュージアムになっていないか心配である。	パークミュージアムでは、公園の価値と資源を活かし、まちなかの賑わいと連携させていくことで、町田らしい多彩なアート・カルチャーを体現する場となることを目指しています。
	パブリックコメントを実施して欲しい。	多くの方の意見を取り入れられるよう、方法について検討してまいります。

ご意見のカテゴリ	ご意見	回答
(仮称)国際工芸美術館の整備について	エレベータを24時間利用にして欲しい。 (仮称)国際工芸美術館と町田市立国際版画美術館の間のエレベーターについて、周辺住民の駅前への徒歩ルートとして、朝6:00から夜10:00まで利用可能にしていただきたい。 (仮称)国際工芸美術館は以前の計画では一般の生活通路として使用できるエレベーターを設置するとあったが、今回の計画ではどのようにになっているのか。 エレベーターについて、朝早くから夜まで使えることになってたと思うが今回の計画では違う様なので、どうしてそうしたのか教えてほしい。	新たに設けるエレベーターは、前回の基本設計と考え方は変わらず、市街地と公園との高低差を解消するパリアフリー動線のひとつとして整備を予定しています。 現在の美術館開館時(10時～17時、土・日・祝は～17時30分)以外においても利用ができることを前提として設計を進めていますが、具体的な利用時間等については、防犯面、コスト面等も踏まえ今後検討・決定いたします。
	エレベーターを含め町田市立国際版画美術館に通路ができるようだが、町田市立国際版画美術館の機能やもみじ園などの美しい風景が台無しになり、版画美術館と芹ヶ谷公園の一体感がなくなると思う。	もみじ園は、自然地形による独特の囲まれ感やもみじの彩りなどが魅力的な場所です。この場所は既存の地形や植生がつくる風景を残しながら、アートと自然の合流点として、(仮称)国際工芸美術館やデッキスロープからの眺めを意識した整備を行います。
	今回の計画ではエレベーターの位置が町田市立国際版画美術館のもみじ園付近に計画が変更されたように理解したが、現在のもみじ園の「滝」とモミジの美しい風景が台無しになることや、通路が町田市立国際版画美術館の中に取り込まれ、芝公園側への通過路としての機能がなくなるのではないかと強い懸念を持っている。これは明らかに今までの話し合いの根幹を無視したものと理解するが、どのような判断があったのか明確に答えてほしい。	
	総事業費を知りたい。	美術館整備の概算建設コストについては、基本設計の後半において積算予定です。
	(仮称)国際工芸美術館は町田市立国際版画美術館と一体化するというが、建物の外形も含めて全てが版画美術館とよくマッチしている計画内容なのか。	新たに整備する(仮称)国際工芸美術館については、既存の町田市立国際版画美術館や芹ヶ谷公園の自然と調和する建物として計画しています。
	工事車両の誘導路と完成後の車両の搬入出路がよくわからず心配である。	(仮称)国際工芸美術館の工事車両及び搬入車両については、せりがや会館側の入口(動線)を予定しています。
	(仮称)国際工芸館の位置の変更そのものは異論がない。原町田4丁目側からのアクセスが良くなることは良いと思うが、誘導路(工事車両と完成後の入場車両の範囲、搬入・搬出路)などの計画が不安である。	
	入館する場所がよくわからない。入館場所を共通にする必要があるのかも議論が必要でないか。ブリッジもいらない。ブリッジを使わなくとも町田市立版画美術館と(仮称)国際工芸美術館の一体感は隣接しているだけで充分だと思う。	(仮称)国際工芸美術館の入口は、町田市立国際版画美術館と共に既存のメインエントランスまたは新たに整備するアートステージです。 入口を共通とし各館の展示フロアを連続した動線でつなぐことで、特徴ある二つの美術館を一体的に楽しんで頂けるになります。 また、美術館は、美術品の適切な展示・保管にあたっての温湿度管理のため、外界との境界となる機能・空間を設ける必要があります。両館で入口を共有することで、これらの機能の効率化や建物面積の削減を行い、将来の運営コストの削減も図っています。
	一度否決された案件であり慎重に対応して欲しい。 過去の設計内容(版画館となじまないガラス張りの建物)からどのように変更をしたのか説明がないが、住人への変更説明もなく、決めて良いのか。どのような形で今回の基本設計を発注したのか大いに疑問である。	基本設計の見直しについては、2019年8月にこれまでの経緯や今後の進め方等についてご説明するスタートアップミーティングの開催を始めとして、これまでアンケート調査、市民参加型のワークショップ、コンセプトについての報告会、意見募集等を行ってきました。 また、実施にあたっては町田市HPや広報等への掲載の他、ポスティングや自治会・府内会等への周知を行ってきたところです。 今後もより多くの方にお伝えできるよう周知に努めてまいります。
	地元住民が本プロジェクトをどれだけ認知しているのか。	
町田市立国際版画美術館について	町田には福祉施設がたくさんある、「けやき」など障害を持った方たちの働く場をなくさず、もっとつくるべきだ(公園の中にも)。十分支援をしてほしい。	障がい者の働く場については、今後検討してまいります。
	町田市立国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館の整備を楽しみにしている。計画を見ると、現在の版画工房の場所がアートステージ、体験ステージになるようだが、本来の版画美術館としての活動が継承されるようお願いしたい。他に類を見ない版画に特化した美術館であるということを町田の誇りとして大切にしてほしい。	
	町田市立国際版画美術館の工房からは日本に限らず、世界で活躍する作家が多く出ている。町田市立国際版画美術館の工房がなくなると美術館は単に作品の収集、展示のみの場所になってしまい、版画の歴史と共に、若手の作家が育つ場所がなくなり、日本の版画界の衰退に繋がる。また、工房では子供たちのワークショップなどで本格的に作業制作をしている姿を見せることができ、工房がないとせっかく興味を持ったものが単にお遊びに終わってしまうことになりかねぬ勿体ないと思う。ぜひとも版画工房の存続をお願いしたい。	現在の版画工房やアトリエのような体験機能については、美術館の建物ではなく、公園の未利用地を活用し新たに「体験ステージ」の整備を検討しています。
	町田市立国際版画美術館は他に無い版画に特化した美術館であり、アトリエ・工房利用者は数多く、ここで版画家活動を始めた方も多くいる。他に同様の工房もなく、作家たちが頼りにしている工房である。今回の改修に伴いアトリエ・工房がなくなるのは「版画美術館」として寂しい限りである。今一度、版画工房の実態を調査した上での版画美術館らしい改修を希望する。	美術館の建物とは別に分けることにより、火・熱・汚れ、音等に対して現在より柔軟に対応できるようになり、版画や工芸の体験を始めとして、より多様な創作活動に対応できる場となると考えています。
	町田市立国際版画美術館の版画工房は国内でも有数の機材・設備を揃えており、工房・アトリエの主催する講座や一般開放は公立の美術館として他に類のない事業である。版画を制作してみたいと願う人々や作家たちの版画制作を支え、ここで制作を始めて版画家として活躍している作家も多くいる。今回の計画にある「スタジオ」が担うとされる「参加型アートやパフォーマンスマート、インタラクティブ・アートなど現代の美術表現に対応する展示空間としての役割」は、版画とも工芸とも関係がなく、流行りの別ジャンルの現代アートを取り入れ版画文化の普及を支えてきた工房事業を捨てることになり、本当に求められていることなのか。人気の事業を続けつつ、一流的の設備を活用した新たな試みを盛り込んで発展させていくこそこそ、求められているのではないか。版画工房・アトリエの存続を考えて欲しい。	

ご意見のカテゴリ	ご意見	回答
公園の施設について	「ヤネシタステージ」について検討中ということだがぜひ実現してほしい。この場所はせりがや冒険遊び場の前にあり、子育て支援系の活動をされている方がよく活動場所に選ばれている。屋根があることで少しの雨でも活動ができ、夏は日除けにもなるので前向きに検討して欲しい。	ステージの必要性も含め、検討を進めてまいります。
	既存の「冒険広場」と「せりがや 冒険遊び場」の名前が紛らわしいので、整備を機に冒険広場の名前を変えることはできないか。他の場所のステージという言い方を使って「〇〇ステージ」のような名称に変えることはできないか。	公園施設については、分かりやすい名称を検討してまいります。
	谷の回廊側の一番奥に遊具広場が計画されているが、どのような種類の遊具が設置されるのか。	多くの方にご利用いただける遊具の設置を検討してまいります。
	鶴間の森と同程度の、子供が遊ぶ遊具を充実させて欲しい。	
	小田急線路沿いのカンパンステージ(遊具広場)について公園の端に位置し、現状あまり人が行かないエリアなので、遊具広場の安全性が心配である。なるべく見透しをよくし、人目があるような管理の仕方を検討してほしい。	防犯・安全性に考慮しながら検討を進めてまいります。
	芹ヶ谷公園は横に長い公園で、うっそうとした森の中にスロープや斜面がある。緊急事態が起きた時や、報告した方がいい不具合等があった時に、正確な位置を伝えるために、所々に位置番号と連絡先を記した看板があると心強く思う。	防犯・安全性に配慮しながら検討を進めてまいります。
	アクティビティステージはステージと呼ぶには狭い印象があり、ダンダンステージとも被るよう思う。大型すべり台その擁壁に現在グラフィティアートが描かれ、その前が少し平地になっているので、そこにアクティビティステージを設け、グラフィティアートの描き替えや、ヒップホップダンスのライブ、スケボーフィールドなどの整備をしてはどうか。将来的にモノレールの為の都道の高架下になると想われるが、ホタルが生息するわき水の保護も合わせて整備できたらと思う。	アクティビティステージでは、水路周辺利用者の皆様の利便性向上の機能を検討しております。現状の生態系にも留意し、検討を進めてまいります。
公園の自然について	大きなイベントが年に何回か開かれる公園としてトイレが足りていない。特に多目的広場に隣接しているトイレが足りておらず、谷の回廊側の小田急線沿いに遊具広場をつくるのであれば、そちらのトイレも足りなくなると思われる。今後、イベント開催期間以外でも来園者が増えることが予想される中、ステージをあちこちに作るよりも、清潔に管理されているトイレや手洗い場をしっかり整備することの方が、感染症予防の観点からも重要と考える。	公園設計においては、通常の公園利用のトイレの個数を確保しております。イベント開催時の対応や、日常管理については、管理運営手法と合わせて検討を進めてまいります。
	暗いと治安が悪くなるという理由で木々が無残に伐採されるのを見て、行くのをやめた。切り開いて明るくなると、夜中に若者が騒いで余程治安が悪くなると思う。	防犯・安全性に考慮しながら検討を進めてまいります。
	緑と水のかかわり方について 現在、公園のコナラにナラ枯れ(カシノナガキイムシの害)が発生している。定期的な樹木観察と樹木医への相談が必要ではないか。	現況を確認の上、必要に応じて対応いたします。
	ほとんどの人が一度しか行かない施設を建てるために、どこにもない豊かな自然を破壊する理由がわからない。	谷戸地形がつくる緑と水の風景は、他の公園では見られない芹ヶ谷公園ならではの大切な資源です。“芸術の杜”プロジェクトでは魅力的な資源を活かしながら自然環境を積極的に楽しめ、ここでの環境でしかできない多様な人々の活動が生まれる様な空間づくりを目指しています。建物の建設に当たっても、工事後に公園全体の植生や周囲の環境に配慮しながら補植を行います。
	ホタルの保護を整備の重要な事業にしてほしい。	既存の生態系に配慮した公園整備・管理運営の検討を進めてまいります。
アクセスについて	湧き水の恩恵でザリガニ釣りや、ホタルの鑑賞が可能な街中のビオトープ的な環境をここで欲しい。	
	都市計画道路3・4・11号の計画予定範囲に、螢の観察できる場所があるが、螢の生育に影響はないのか。	既存の自然環境にも配慮した検討を進めてまいります。
	芹が谷公園は町田駅前から徒歩15分という足場の良い立地であり、市民が積極的に集遊することが望ましい。公園整備だけに終わらず、駅前から公園に至るルートの魅力を向上させる振興策も実施して欲しい。	原町田大通り、文学館通りをはじめとし、シバヒロ、や子どもセンターまあち、商店街や駅前大型店舗など中心市街地との連携をより一層進めてまいります。まちなかと公園が一体となり賑わいを創出することで、多くの来街者が訪れるまちづくりを進めてまいります。
その他	公園の整備は将来モノレールを引くための布石ではないか。	
	本計画について市民みんなが楽しめる様々なアイディアが盛り込まれていると思うが2018年の市政方針で「これからまちづくりはすべてモノレールを前提とする」と市長が表明したことが気になっている。現在、合理的な新交通システム(BRT やBLT)が確立し、多くの都市で採用されている中で何が町田に相応しいか、この先の激しい時代の変化も見据えて慎重に時間をかけて検討を重ねるべき事柄だが、モノレールの事業が専門家を交えて関係部署が集まって協議をすることでも、広く市民の声を聞くこともなくいいなりモノレールありきで始まり、市民は他の選択肢があることさえ知られていない。 今回の資料公表に市民からのアイディア、意見を参考にコンセプトを作成したとあるが、芹ヶ谷公園をモノレールが通るとしたら、公園の真ん中で谷の高低差15mを鉄橋で渡る巾25mの都道を造り、その上に5~10mの橋脚が乗るので、車両は地上20~25mの高所を走行することになる。これでは安らぎを求めるべき公園が「恐怖の公園」と化す。「町田の自然と文化に出会えるパークミュージアム」がコンセプトだが、当然、巨大な建造物により自然は大きく壊される。又、文化とは美術館の有無によるのではなく、このような異常な状態、景観を押し付けることこそが非文化的ではないか。市が自ら市民の財産を壊すようなことにならないよう、慎重に検討の上市民に説明して欲しい。	芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトでは、中心市街地の貴重な空間資源である芹ヶ谷公園を、地域の人にとっての憩いの公園として、そして市内外から多くの人が訪れる町田市の顔のひとつとなるよう、魅力向上を目指しています。 モノレールについては、現時点で整備時期は未定となっております。都市計画道路については現在、事業化に向けて調査設計を進めております。